

二重経済における失業均衡の存在

高羅ひとみ

平成 23 年 1 月 21 日

概要

インドをはじめとする途上国では次のような特徴があるとされている。つまり、1. 農村では低賃金であるが、豊富な労働力を有している。そして、2. 農村から高賃金の都市への労働力の流入がある。しかし、3. 都市では失業があり、必ずしも都市に流入した労働者が雇用されるとは限らない。さらに、4. 農村では低賃金とともに、市場の連結と呼ばれる現象が報告されている。これらの特徴をもつ経済を一般均衡の枠組みで表現し、比較静学を確立することが本論文の目的である。我々は最初の問題を次のように解決する。労働者は都市には失業があることを知っており、その率を知った上で期待効用に従って賃金の高い都市に行くか農村に留まるかを決めるとする。都市の労働市場の均衡を、あらかじめ知られている失業率が結果として現れる失業率と一致することによって、表現する。これによって、失業のある経済でのワルラス法則の成立が保証され、均衡存在の確立に結びつく。さらに、本論文で得る主たる比較静学は、(i) 資本ストックが増加する、あるいは、労働者間の生産効率の差が小さくなると、失業率は下落すること、(ii) ある条件のもとで、農村における産出増加的な技術改良は、失業率を上昇させる、である。

JEL classification: J64; Q12; O12

Keywords: Urban Unemployment; Labor Migration; Labor Heterogeneity; Interlinkage; Existence of Equilibrium; General Equilibrium Model